

『学習する楽しさや成就感を味わわせる学習指導の充実』

秋竹小学校

1 目的

- ・ 基礎学力の定着を図るとともに、学年に応じた体験活動を取り入れた学習を積極的に進め、児童の学習意欲を高めます。
- ・ 地域の人材や教材を活用したり外部の専門家による授業を行ったりして、児童の興味関心を高めます。
- ・ 校内現職教育の充実により、教師の授業力を高め、個に応じた指導の徹底を図るとともに、活力ある授業を展開します。

2 内容

- ・ 地域の方の協力を得て、昨年度実施できなかった田植え・稲刈り体験（5・6年）を復活させます。稲の生長の様子を随時観察するとともに、収穫した米を自分たちの手で調理し、全校児童が味わうことにより、地域とともにあることを意識させ、地域への愛着をもたせるようにします。
- ・ ハッピートークトレーニングを行うことにより、普段何気なく遣っている言葉の大切さに気づかせ、温かい人間関係を築こうとする意欲を高めます。
- ・ 校外の各種研修会に参加したり、外部講師を招聘して現職教育を充実させたりすることにより、授業力向上に努めます。特に、今年度は作品展を開催する関係で、図画工作科の指導について、校内現職教育を行います。作品づくりのポイントや展示方法についても、具体的な場面を想定して研修を進めます。
- ・ 特別支援学級だけでなく通常学級においても、児童が、苦手な分野を克服してより楽しく学習に取り組むことができるよう、教具の充実を図ります。また、学習方法についても工夫を重ねることで、困り感の解消に努め、意欲の向上を図ります。

3 評価

- ・ 体験活動を位置づけたカリキュラムの工夫や、体験したことをまとめて他者へ発信することにより、学習への意欲を高めるとともに、自分の思いを言葉で表現することの大切さを学びました。また、教師自身も研修などを通してより効果的な授業方法について学びを深めることで、児童の授業への取り組みが前向きになってきました。
- ・ 出前授業を通じて、温暖化防止や二酸化炭素の削減といった環境について考える場を設定したことにより、身近な環境問題に対する意識を高めることができました。
- ・ ハッピートークトレーニングへの取り組みを3年間継続して行ったことにより、多くの児童が「言葉の持つ力」を実感するとともに、言葉を大切にし、その遣い方に注意しなければならないという思いを抱くことができました。



【七宝焼きを体験して】

4 課題

- ・ 特別な支援を必要とする児童に対する手立ては、通常学級の児童にも有効であることから、さらなる支援を工夫するとともに、必要な教材教具の充実を考えていかなければならないと考えています。



【SSTを使って】

『豊かな心とたくましい体を育む教育活動の充実』

秋竹小学校

1 目的

- ・ 「なかま班」を中心に日常の活動や学校行事に取り組む中で、異年齢交流の充をを図り、その中で思いやりと感謝の心を育むとともに児童の自尊感情を高めます。
- ・ 異年齢交流活動の一環として行っている遊びのなかに、施設や用具を活用した動きを取り入れることで、体力向上を目指すとともに、運動の生活化を図ります。さらには、水泳指導の基本について、教師と児童と一緒に学ぶ機会を設け、泳力向上をも目指します。

2 内容

- ・ 異年齢で構成した「なかま班」により、日常的な活動を継続的に実施します。また、6年リーダーを中心とした温かい人間関係を育成するために、高学年の自主的な運営を支援するとともに、リーダーシップを発揮できる場（なかま遠足・運動会・秋竹カーニバル・ウィンターフェスティバル）を意図的に設定します。
- ・ 業前に行う「なかま遊び」に体力作りの要素を取り入れることで、遊びながら子どもたちの体力向上を目指します。また、なかま活動の一環として行う「秋竹カーニバル」や「ウィンターフェスティバル」など、児童の自主的な活動を支援するための用具を充実させます。
- ・ 遊びの中で体力づくりを図るための施設を充実させます。
- ・ 個人差が大きくなる中学年を対象として、水泳の特別講師を招聘して特別水泳の授業を行うことで、一人一人の泳力の向上を図ります。



【3・4年対象特別水泳】

3 評価

- ・ なかま活動や集会活動で、低学年の思いを大切にしながら活動する高学年児童の自己有用感や自尊感情が高まっています。また、そんな高学年に対するあこがれの思いが、低学年児童の活動意欲を高め、よい人間関係が築かれつつあるのを感じます。
- ・ 「なかま遊び」や体育委員会主催の全校遊びなどを通じて、運動の生活化を図ることができました。少しずつではありますが、児童の体力が向上してきました。
- ・ 高学年のほぼ全員が25メートル以上泳ぐことから、中学年での特別水泳は、泳力向上に役立っていることわかります。また、特別水泳の授業を行うことは、児童の水泳に対する苦手意識を取り除き、泳力を向上させるだけでなく、教師にとっても、より効果的な指導法を学ぶ場となりました。

4 課題

- ・ 委員会や児童会を軸とした児童の活動をなかま活動と融合させることで、さらに体力を向上させたり、自尊感情を高めたりすることができるように、これまでの取り組みを見直し、場の設定や活動の進め方を工夫していく必要があると考えます。

『ふれあいを大切にしたい体験活動の充実』

秋竹小学校

1 目的

- ・ 自然の恵みに感謝する気持ちを育み、命あるものの大切さを知らせるとともに、規律ある集団生活を通して、責任を果たし協力する心を育みます。
- ・ 一人一人が自らの役割を自覚し、積極的にその責任を果たす中で、協働することの喜びを味わわせます。
- ・ 自分の思いを表現することの心地よさを味わわせ、よりよく自己表現をしたいという意欲を高めるとともに、表現力の向上を目指します。

2 内容

- ・ 春日井の自然の中での生活を通して自然に親しみ、自然の素晴らしさや厳しさを体験する中で、なかまとの心の交流を図ります。その際、子どもたちへのサポートを充実させるために、キャンプカウンセラーに支援を依頼し、指導の充実を図ります。
- ・ 講師の指導の下、心を合わせて歌うことで表現力を高めさせるとともに、学級の友達と互いを高め合う関係づくりを目指します。
- ・ 学年の発達段階に応じて、植物の栽培活動をする中で、自然の恵みや生命の不思議を体験させます。そのための花壇等条件整備を進めます。

3 評価

- ・ 今年度より、4・5年生の2学年で野外活動を実施することになりました。2名の大学生キャンプカウンセラーを依頼することにより、子どもたちへ目が行き届き、安全に充実した体験や活動を行うことができました。
- ・ 芸術鑑賞会でコンサートを行っていただいたプロの方を講師としてお招きし、高学年を中心に合唱指導をしていただきました。子どもたちのよさを生かした指導に、学級として一つのものを作り上げる喜びを味わわせることができました。また、ともに歌うことの喜びを体験することで、表現力だけでなく豊かな心をも育てる一助となりました。
- ・ 学級園や植木鉢を活用して、学年ごとに栽培活動を行いました。低学年は一人一鉢としてあさがおやミニトマトを栽培し、種まきから水やりまで自分で世話をすることで、植物を育てる喜びを味わうことができました。また、収穫した野菜を使って調理実習を行い、育てた野菜を自分たちの手で調理する楽しさも味わうことができました。



【講師による合唱指導】

4 課題

- ・ 学級園の整備が不十分なため、特に高学年は、ポットを使ってしか、植物を栽培することができませんでした。学級園のスペースを広くすることや土の入れ替えを行うことで植物栽培に適した学級園にすることが今後の課題です。
- ・ 合唱指導の成果を発表する場として、朝礼での全校合唱の場を活用していますが、子ども同士が聞き合うだけでなく、保護者にも発表する場を設定していきたいと考えます。